

■開幕セレモニー

日 時：11/9（金）13:00-13:30

会 場：日本科学未来館 7階 未来館ホール

出展者：科学技術振興機構

登壇者

濱口 道成 (科学技術振興機構 理事長)

白須賀 貴樹 (文部科学省 文部科学大臣政務官)

佐藤 文一 (内閣府 大臣官房審議官)

吉村 隆 (日本経済団体連合会 産業技術本部長)

チェヨング (韓国科学創意振興財団 理事)

真先 正人 (科学技術振興機構 理事)



主催者を代表して濱口理事長から開会の挨拶があり、その後国内外の来賓からの挨拶、真先理事による開会宣言が行われました。主なメッセージは下記の通りでした。



●主なメッセージ

- ◆サイエンスアゴラは今年で13回目を迎えます。ブタベスト宣言から来年で20年になるが、宣言の4番目にある「科学における、社会のための科学」の持つ深い意味を強く感じています。科学を科学者だけのものにせず、社会全体で“共”に科学を“創”ることが大切になっております。今年のアゴラは「共創」を大切にします。(JST濱口理事長)
- ◆サイエンスアゴラは、あらゆる立場の方が一堂に会し、対話・協働を通じて、科学技術について考え、様々な知識や価値観を共有することができる重要な場です。第5期科学技術基本計画で、未来社会の姿として打ち出している「Society 5.0」の実現や、SDGs実現のため、科学技術的アプローチはますます重要となっていきます。(白須賀文部科学大臣政務官)
- ◆情報、人材、知恵等の融合が科学技術イノベーションの本質であり、多様なステークホルダーによる共創の必要性がますます高まっています。地球規模課題についても同様の取り組みが必要であり、サイエンスアゴラという対話と共創の場が、より一層重要になっていきます。(佐藤大臣官房審議官)
- ◆「Society 5.0」の実現に向け、全力で取り組んでいきたいと考えています。自然科学の知見は繁栄をもたらす一方で、格差などの問題を生んでいることも事実です。これらを克服するためには、人文科学・社会科学を含めたより幅広い意味でのサイエンスを総動員する必要があります。サイエンスアゴラの場合は、「Society 5.0」という未来を共に創りあげられる場です。(日本経済団体連合会 吉村産業技術本部長)
- ◆いかにAIを共存するか、という時代がやってきました。市民が科学に関心を持ち、理解をしていく必要があります。サイエンスアゴラに集まっている人々が知識を寄せ合うことで、変革を遂げることができると考えています。サイエンスアゴラは、科学と社会の間のコミュニケーターの役割を果たすことができる場です。(KOFACチェ理事)
- ◆今年のサイエンスアゴラでは、4つのトピックを設けており、各トピックに沿った選りすぐりの企画が集結しています。各トピックには更に「問い」を設けているので、ぜひ皆さんで考えてみてほしいと思います。この3日間で、私たちひとりひとりが心豊かに生きていくための科学技術をどう取り入れるか、科学技術には何ができるか、ともに考える場としましょう。(JST真先理事)